ISSN 0285-6352

日本語と日本文学

第 28 号

中臣宅守と敬語 ……伊藤　博……(1)

延慶本平家物語と長門本平家物語の本文 ……名波　弘彰……(15)
——「木曽最期」の物語言説の位相差をとおして——

上代日本語の母音脱落とアクセント ……権　景愛……(35)
——融合標示の手段としての両者の相関性——

話し言葉における「トイウコトダ」の諸相 …加藤　陽子……(左1)

疑問文文末形式「否定辞＋カ」の意味と用法 ……
カノックワン・ラオハブラナキット……(左15)

とりたて詞「まで」「さえ」について ……茂木　俊伸……(左27)
——否定との関わりから——

平成 11 年 3 月

筑波大学国語国文学会

投稿規定

一、投稿論文は四百字詰め原稿用紙三十枚（一万二千字）程度。ワープロ原稿の場合はフロッピーを添えて御投稿ください（原稿とフロッピーは原則としてお返しいたしません）。

一、原稿〆切は毎年二度、二月末日および八月末日。

一、原稿送り先

305-0006 茨城県つくば市天王台一―一―一
〒 筑波大学文芸・言語学系事務室内
『日本語と日本文学』編集委員会

投稿案内

本誌では会員の皆様の御投稿をお待ちしております。

学会機関誌はいうまでもなく、学外のOB、学内の教官および学生の三者が一体となって、当該学問に貢献しうる学問的成果を公表してゆく媒体として存在するものであります。従いまして、本誌の一層の充実は、この三者の構成員の熱意に負うところが多大であります。本誌の価値を高め発展させてゆくためには、これら構成員から質の高い論文の投稿を仰がねばなりません。構成員、とりわけ学外のOBの皆様の積極的な御協力を願う次第です。

投稿は「投稿規定」により、また投稿原稿は編集委員会の審査を経た上で掲載させていただきます。なお、抜刷の作製料については投稿者の御負担とさせていただいております。御了承ください。

編集後記

今号には、昨年九月の本学会で講演をしていただいた伊藤博名誉教授から特に玉稿を賜り掲載させてもらいました。先生をはじめ、尽力して下さった関係者一同に感謝申し上げます。本誌には前号に比べて掲載論文が少ないのですが、投稿論文は決して少なくはなかったのです。ただ年度の予算の枠内ではどうしても今号にしわ寄せがこざるをえず、かくなった次第です。これも編集責任者の不手際で、投稿者にはご迷惑をお掛けいたしました。どうか、このことにもめげることなく、次号以後への積極的な投稿を期待しております。

ただ喜ばしいことは、ここ数号、言語学に遅れましたが、文学方面でも、掲載論文が学会主要紙の時評欄の注目を得るようになったことです。これは本誌の評価を高めるもので、論文執筆者の力量の賜物と思われます。今後も本誌が学会の中で、それなりの評価が得られるべく、質の高い論文の投稿を願ってやみません。

（名波　弘彰）

平成十一年三月二十五日印刷
平成十一年三月二十五日発行
305-0006 茨城県つくば市天王台一―一―一
〒 筑波大学　文芸・言語学系内
編集・発行　筑波大学国語国文学会
代表者　池　内　輝　雄
印刷所　ニッセイエブロ株式会社
Tel 〇二九八(五一)七六五二